

囲碁入門講座通信 令和3年 第40号



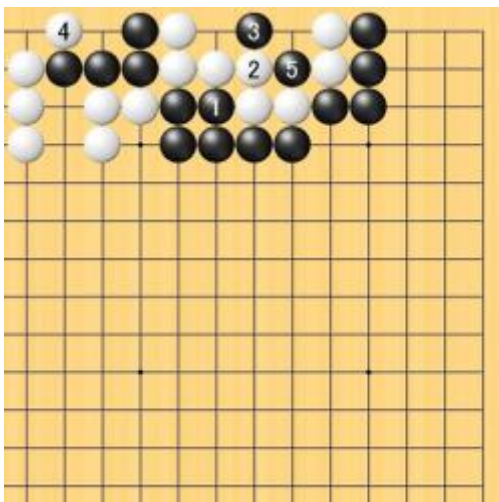
報告:有楽齋

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいたのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。
(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号は入門者用にやさしい攻め合い問題をご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)
ダメの数では負けでも、手筋の力で石を取る 単純にダメを詰めていくのでは、自分の石が先に取られてしまうような場面で、手筋の力を借りて攻め合いに勝つ手順を考えていただきます。①相手の手数を縮める手筋と②自分の手数を伸ばす手筋の力を借りて・・・

前号(第39号)の続きです 問題6 正解と解説の続き

問題6 正解図



黒は取られそうな黒に接している白3子のダメを詰めなければならない。と考えれば黒1が浮かぶのは時間の問題。白2のツギに3が急所なのはすぐにわかりますね。そう、ウツェガエシの形です。白4で5と守っても黒は手数で勝っています。

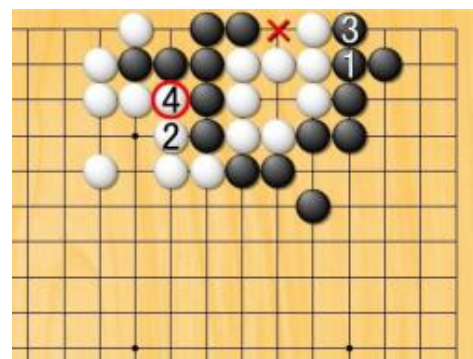
ワンポイントレッスンー攻め合いの知識 ●外ダメと内ダメ、眼あり眼なし

下の図は、黒7子と白8子が攻め合いの形になっていますが、白には一眼あります。

黒先でどちらが勝つでしょうか？



こうした攻め合いでは、まず相手の外ダメから詰めてゆき、内ダメ(aの地点)は最後に打つのがセオリーです



白のダメは3カ所あり、4手目に白の眼の中に打てば白石が取れます。一方、黒のダメは4カ所ですが、外ダメから詰める場合は、1線の白ハネの左にツギが必要なので、計算上は黒を取るのに5手かかります。黒が先に打てば、攻め合いに勝てそうに見えますが・・・

右の図で検証してみましょう。黒1から白4まで、お互いに外ダメをツメ合ったところです。ここで黒は×印のところに打ちたいのですが、すると黒石がアタリになってしまいいます。